

日本頭痛学会 研修カリキュラム(研修手帳) 2015. 10. ver.1

研修目標を明確にすることを目的に「研修カリキュラム」を作成した(2015年10月現在).
使用にあたっては日本頭痛学会 HP で最新情報を確認すること.

大項目		知識	技術・ 技能	症例
小項目				
1. 頭痛のサイエンス				
A: 病態の理解と合わせて十分に深く知っている. B: 概念を理解し、意味を説明できる.				
1. 頭痛の疫学・社会医学				
	医療経済学	B		
	日本の頭痛医療の現状	B		
	有病率	A		
2. 頭痛に関する解剖学				
	三叉神経	A		
	中間神経	B		
	三叉神経脊髄路尾側亜核	B		
	脳幹 (PAG, 縫線核, 青斑核, 上唾液核など)	B		
	視床, 視床下部	B		
	大脳皮質 (大脳辺縁系を含む)	B		
3. 頭痛と関係する神経伝達物質 (薬理学)				
	セロトニン	A		
	ドバミン	B		
	CGRP	A		
	神経ペプチド (CGRP 以外)	B		
4. 疼痛に関する神経機構と鎮痛機構				
	下行性疼痛制御系	B		
	慣れ (habituation)	B		
5. 頭痛に関する病態生理学, 頭痛の発生機序, メカニズム				
	三叉神経血管説	A		
	神経原性炎症	A		
	片頭痛発生源 (migraine generator)	B		
	末梢性および中枢性感作	B		
	アロディニア	B		
	脳血流/脳血管の神経支配	B		
	血小板の関与	B		
	自律神経の変化	B		
6. 皮質拡延性抑制 (cortical spreading depression)				
	電気活動および血流の経時変化	B		
	イオン環境の変化	B		
	グルタミン酸と NMDA 型グルタミン酸受容体の関与	B		
	グリアの役割	B		

7. 頭痛の分子生物学, 遺伝, 遺伝子, 家族性			
	遺伝形式の理解	B	
	片頭痛関連遺伝子 (GWAS から明らかにされた疾患感受性遺伝子)	B	
	家族性片麻痺性片頭痛 (FHM)	A	
	CADASIL	B	
	MELAS	B	
	その他 (RVCL, FASPS2 など)	B	
8. 頭痛の歴史			
II. 頭痛の臨床			
A: 複数回の経験を経て, 安全に実施できる, または判定できる. B: 経験は少数例だが, 指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる, または判定できる. C: 経験はないが, 自己学習で内容と判断根拠を理解できる.		知識	技術・技能 症例
1. 頭痛診療ガイドラインの理解			
	慢性頭痛の診療ガイドライン 2013 の理解		A
2. 頭痛の分類と診断			
	国際頭痛分類第 3 版 beta 版 (ICHD-3 β) の理解 (ICHD-2 との差異)		A
	慢性連日性頭痛 (CDH) の概念		B
3. 一次性頭痛			
3.1 片頭痛			
	■総論/概念/解説		
	分類・病型 (主要なもののみ示す)		A
	前兆のない片頭痛		A
	前兆のある片頭痛		A
	典型的な前兆に片頭痛を伴うもの		C
	典型的な前兆に非片頭痛様の頭痛を伴うもの		C
	典型的な前兆のみで頭痛を伴わないもの		C
	脳幹性前兆を伴う片頭痛 (前庭性片頭痛との差異についても理解)		C
	家族性片麻痺性片頭痛 (FHM)		C
	孤発性片麻痺性片頭痛		C
	網膜片頭痛		C
	慢性片頭痛		B
	片頭痛性脳梗塞		C
	片頭痛に関連する周期性症候群		C
	予兆と前兆の理解		A
	疫学, 有病率		A
	生活支障度 (健康への影響 (burden))		A
	片頭痛の経年変化, 自然経過 (自然史), 予後		B
	進行性病変としての片頭痛の理解		B
	慢性化 (chronification)		B
	Life Disease としての片頭痛の理解		B
	病態, 発生機序, メカニズム (I.-1.~7. と関連して学習)		B
	危険因子		B
	誘発因子 (誘因), 増悪因子		B

	軽快因子		B	
	日周性, 年周期		B	
	■診断			
	診断基準, 診断		A	
	診察(身体所見/神経所見/精神・心理所見)		A	
	随伴症状/陽性症状/陰性症状		A	
	鑑別診断(片頭痛 vs. 緊張型頭痛 vs. 群発頭痛 vs. 三叉神経痛 vs. 二次性頭痛ほか)		A	
	共存症の把握		A	
	検査/画像診断		A	
3.2	緊張型頭痛			
	■総論/概念/解説			
	分類・病型		A	
	稀発反復性緊張型頭痛		A	
	頻発反復性緊張型頭痛		A	
	慢性緊張型頭痛		A	
	緊張型頭痛の疑い		B	
	疫学, 有病率		A	
	生活支障度(健康への影響〈burden〉)		A	
	自然経過(自然史), 予後		B	
	病態, 発生機序, メカニズム		B	
	誘発因子(誘因), 増悪因子, 軽快因子		B	
	■診断			
	診断基準, 診断		A	
	診察(身体所見/神経所見/精神・心理所見)		A	
	随伴症状		A	
	鑑別診断(緊張型頭痛 vs. 片頭痛 vs. 群発頭痛 vs. 三叉神経痛 vs. 二次性頭痛ほか)		A	
	共存症の把握		A	
	検査/画像診断		A	
	■話題, トピックス			
3.3	群発頭痛/三叉神経・自律神経性頭痛(TACs)			
	■総論/概念/解説			
	分類・病型		A	
	群発頭痛		A	
	発作性片側頭痛		B	
	結膜充血および流涙を伴う短時間持続性片側神経痛様頭痛発作(SUNCT)		C	
	頭部自律神経症状を伴う短時間持続性片側神経痛様頭痛発作(SUNA)		C	
	持続性片側頭痛		C	
	三叉神経・自律神経性頭痛の疑い		C	
	疫学, 有病率		A	
	生活支障度(健康への影響〈burden〉)		A	
	自然経過(自然史), 予後		A	
	病態, 発生機序, メカニズム		B	
	誘発因子(誘因), 増悪因子		B	
	軽快因子		B	

	日周性		B	
	■診断			
	診断基準, 診断		A	
	診察(身体所見/神経所見/精神・心理所見)		A	
	随伴症状		A	
	鑑別診断(群発頭痛 vs. 片頭痛 vs. 緊張型頭痛 vs 三叉神経痛 vs. 二次性頭痛ほか)		A	
	検査/画像診断		A	
	■話題, トピックス			
3.4 その他の一次性頭痛				
	分類・病型		C	
	一次性咳嗽性頭痛		C	
	一次性運動時頭痛		C	
	性行為に伴う一次性頭痛		C	
	一次性雷鳴頭痛		B	
	寒冷刺激による頭痛		C	
	頭蓋外からの圧迫による頭痛		C	
	一次性穿刺様頭痛		C	
	貨幣状頭痛		C	
	睡眠時頭痛		C	
	新規発症持続性連日性頭痛(NDPH)		B	
	診断基準, 診断, 治療		A	
4. 症候別頭痛の鑑別診断				
	突然の頭痛, 初発の頭痛, 雷鳴頭痛の種類と鑑別		A	
	部位別鑑別診断		B	
	短時間持続性頭痛の鑑別		B	
	一側性頭痛の鑑別		B	
	早朝頭痛の鑑別		B	
	インドメタシン反応性頭痛の理解		B	
5. 一次性頭痛の問診と診断				
	的確に頭痛の問診と診断が行える		A	
	随伴症状, 陽性症状と陰性症状の理解		A	
	頭痛の鑑別(片頭痛/緊張型頭痛, 片頭痛/群発頭痛, 群発頭痛/三叉神経痛など)		A	
	一次性頭痛と二次性頭痛の鑑別		A	
	頭痛診療支援ツール, コミュニケーションツール(問診票, スクリーナー, 支障度(重症度)判定スケール(MIDAS/HIT-6), 疼痛評点スケール)の利用		A	
	頭痛ダイアリーを頭痛治療に活用できる		A	
6. 二次性頭痛				
	病歴聴取と内科的・神経学的検査により二次性頭痛を診断し鑑別できる		A	
	主要な二次性頭痛の診断と対応が可能である.		A	
	■頭頸部外傷による頭痛			
	慢性硬膜下血腫		A	
	頭頸部外傷後頭痛		C	
	■脳血管障害による頭痛			
	くも膜下出血		A	

	くも膜下出血の重要な臨床像と雷鳴頭痛の他の原因		A	
	動脈解離		B	
	可逆性脳血管攣縮症候群 (RCVS)		B	
	■動脈炎による頭痛			
	巨細胞性動脈炎 (側頭動脈炎)		A	
	中枢神経系原発性血管炎 (PACNS)		B	
	■脳腫瘍による頭痛, 頭蓋内圧亢進性頭痛			
	脳腫瘍		A	
	特発性頭蓋内圧亢進		B	
	特発性低髄液圧性頭痛 (脳脊髄液減少症)		B	
	硬膜穿刺後頭痛		B	
	■物質またはその離脱による頭痛			
	薬剤の使用過多による頭痛 (薬物乱用頭痛, MOH)		A	
	■感染に伴う頭痛			
	細菌性, ウイルス性, 真菌性髄膜炎		A	
	■ホメオスタシスに伴う頭痛			
	高血圧と頭痛		C	
	■頸性, 眼・耳鼻科疾患, 口腔外科疾患による頭痛			
	頸原性頭痛		C	
	orofacial pain (口腔顔面痛), 顎関節症		C	
	眼科領域の頭痛 (急性閉塞隅角緑内障など)		B	
	耳鼻科領域の頭痛 (慢性副鼻腔炎など)		C	
	■心身医療, 精神医学的な頭痛			
	パニック障害, 抑うつ, 身体表現性障害と頭痛		B	
	■神経痛・顔面痛			
	三叉神経痛		A	
	舌咽神経痛		C	
7. 頭痛に関連する検査/画像診断				
	血液検査, 髄液検査, CT, MRI, MRA など		A	
8. 珍しい頭痛疾患 (rare headache disorders) の知識				
	飛行機頭痛, 入浴頭痛, 赤耳症候群など		C	
III. 頭痛の治療と管理				
A: 主治医 (主たる担当医) として自ら経験した. B: 間接的に経験している (実症例をチームとして経験した, または症例検討会を通して経験した). C: レクチャー, セミナー, 学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した.		知識	技術・技能	症例
0. ねらい: 治療計画を立案できる				
	片頭痛, 緊張型頭痛, 群発頭痛, その他の一次性頭痛の的確な診断のもとに, 患者の安全を優先した治療計画を立案し, 急性期治療, 予防療法を行える. 適切な患者指導を行える.			A
	頭痛診療において, 頭痛患者の尊厳を認め, 訴えを傾聴し共感する. 守秘する			A
	頭痛の集学的治療を構築できる (神経内科-脳神経外科-心療内科-ペインクリニック, その他の頭痛関連各科)			A
	頭痛の入院治療の対象を選択し, 治療できる			A

	頭痛診療アルゴリズムを利用できる			A
	地域、国の保健資源、インターネットサイトにアクセスし、利用できる			A
1. 片頭痛				
	(薬物) 治療計画			
	■急性期治療			
	トリプタン系薬剤の知識 (エビデンス、作用機序、適正・適期使用など)			A
	エルゴタミン製剤, NSAIDs, カフェイン, 制吐薬, その他の知識			B
	step-care と "stratified-care" の理解			B
	■片頭痛の急性期治療薬の種類とエビデンス			
	作用機序			A
	使い方			A
	使い分け			A
	■予防療法			
	適応			A
	種類とエビデンス (β 遮断薬, Ca拮抗薬, 抗うつ薬, 抗てんかん薬など)			A
	治療計画			A
	作用機序			A
	使い方			A
	複数の予防療法の使いわけ			A
	共存症の知識			A
	■処方薬 (西洋薬) 以外の治療法			
	認知行動療法			C
	東洋医学的治療 (漢方, 鍼灸)			C
	OTC 治療			C
	補完・代替療法 (ハーブ, サプリメント, 非薬物的治療など)			C
	非薬物的治療 (体操, 物療など)			C
	ペインクリニック治療			C
	[注] OTC : over the counter, 一般用医薬品, 大衆薬, 市販薬 補完・代替医療 (complementary and alternative medicine : CAM) とはハーブ, サプリメント, 非薬物的治療を含む。広義には漢方, 鍼灸治療を含む。 非薬物的治療 : 体操, 運動, ストレッチ, 物療など サプリメント (栄養補助食品) : ビタミン B ₂ 療法, マグネシウムなど ハーブ : フィーバーフューなど			
	■薬物の安全性, 副作用・有害事象			C
	■妊娠・授乳中への対応			B
	■治療に対するノンリスポンダー, 難治例の原因追究と対策			B
	■予防・指導 (服薬指導, 生活指導)			B
	■最先端の治療の知識			
	新薬, 新しい治療, 注目すべき治療, 今後期待される治療			C
	ボツリヌス毒素治療			C
	■慢性片頭痛のマネジメント			B
2. 緊張型頭痛				
	(薬物) 治療計画			
	■急性期治療			
	急性期治療薬の種類とエビデンス			A

	作用機序			A
	使い方			A
	使い分け			A
	■予防療法			
	適応			A
	予防療法の種類とエビデンス			A
	作用機序			A
	使い方			A
	使い分け			A
	共存症の知識			A
	■処方薬（西洋薬）以外の治療法			
	認知行動療法			C
	東洋医学的治療（漢方，鍼灸）			C
	OTC 治療			C
	補完・代替療法（ハーブ，サプリメント，非薬物的治療など）			C
	非薬物的治療（体操，物療など）			B
	ペインクリニック治療			C
	■薬物の安全性，副作用・有害事象			C
	■妊娠・授乳中への対応			B
	■治療に対するノンリスポンダー，難治例の原因追及と対策			C
	■予防・指導（服薬指導，生活指導）			C
	■最先端の治療の知識			
	新薬，新しい治療，注目すべき治療，今後期待される治療			C
	ボツリヌス毒素治療			C
	■慢性緊張型頭痛のマネジメント			C
3. 群発頭痛／三叉神経・自律神経性頭痛（TACs）の治療				
	（薬物）治療計画			
	■急性期治療			
	急性期治療薬の種類とエビデンス			B
	作用機序			B
	使い方			B
	使い分け			B
	■予防療法			
	適応			B
	予防療法の種類とエビデンス			B
	作用機序			B
	使い方			B
	使い分け			B
	■処方薬（西洋薬）以外の治療法			C
	■薬物の安全性，副作用・有害事象			C
	■治療に対するノンリスポンダー，難治例の原因追及と対策			C
	■予防・指導（服薬指導，生活指導）			C
	■最先端の治療の知識			
	侵襲的治療			C
	新薬，新しい治療，注目すべき治療，今後期待される治療			C

	ボツリヌス治療, 頭痛の新薬など			C
	■慢性群発頭痛のマネジメント			C
4. その他の一次性頭痛				
	治療計画			C
5. 二次性頭痛				
	二次性頭痛の診断に基づき治療を構築できる			B
	頭痛に関するコンサルテーション, 紹介システムを利用できる			B
6. 顔面・神経痛				
	治療計画			B
7. ER(救急室)での頭痛診療, 頭痛急患への対応, 頭痛の救急医学				
	救急室や一般外来での頭痛急患に対応できる			A
	突然の頭痛に応急処置と緊急検査ができる			A
	雷鳴頭痛の知識を有する			A
IV. 頭痛の特論				
A: 複数回の経験を経て, 安全に実施できる, または判定できる. B: 経験は少数例だが, 指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる, または判定できる. C: 経験はないが, 自己学習で内容と判断根拠を理解できる.		知識	技術・ 技能	症例
1. 小児・思春期の頭痛				
	種類と特徴			B
	一次性頭痛, 小児片頭痛, 二次性頭痛			B
	小児・思春期の頭痛の診断			B
	小児・思春期の頭痛の治療			B
	急性期治療薬			B
	予防療法			B
2. 女性の頭痛				
	妊娠中, 授乳中の頭痛治療			B
	月経時片頭痛の診断と治療			B
	更年期の頭痛			B
	性ホルモンの影響とホルモン治療			B
	性差医療			C
3. 高齢者の頭痛				
	高齢者の頭痛の原因, 診断, 治療			B
4. 薬剤の使用過多による頭痛(薬物乱用頭痛, MOH)				
	概念			A
	病態			A
	診断基準			A
	治療			A
	予防・指導(服薬指導, 生活指導)			A
5. 慢性連日性頭痛				
	概念			B
	分類と診断			B
	変容性片頭痛, 慢性片頭痛			C
	慢性緊張型頭痛			C

	持続性片側頭痛		C	
	新規発症持続性連日性頭痛 (NDPH)		B	
	治療		B	
	予防・指導 (服薬指導, 生活指導)		B	
6. 共存症 (comorbidity)				
	一次性頭痛 (とくに片頭痛) の共存症の概念		B	
	共存症の種類 (不安, 抑うつ, パニック, めまい, てんかんなど)		B	
	共存症のある場合の治療選択, 禁忌		B	
7. 片頭痛と脳卒中 (migraine and stroke)				
	片頭痛と脳梗塞, 白質病変 (white matter lesion) の関係		C	
	卵円孔開存と片頭痛		C	
	片頭痛における心血管病のリスク		C	
V. 頭痛医療				
	A: 複数回の経験を経て, 安全に実施できる, または判定できる. B: 経験は少数例だが, 指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる, または判定できる. C: 経験はないが, 自己学習で内容と判断根拠を理解できる.	知識	技術・ 技能	症例
1. 頭痛に関する医療システム				
	プライマリケア医の役割		C	
	頭痛専門医の役割		C	
	頭痛外来・クリニック		C	
	総合診療科の役割		C	
	専門医への紹介のタイミング		C	
	医療連携 (病診連携)		C	
	産業医, 脳ドック医, 校医, メディカルスタッフ, 薬剤師, 看護師との連携		C	
	家庭, 職場での頭痛		C	
	頭痛診療のリスクマネジメント		C	
2. 診療スキルと患者教育・指導				
	頭痛診療に関して適切な文書化処理と医学記録が可能である		A	
	心理的, 社会的因子ないし背景の把握と理解ができる		A	
	対人的なコミュニケーションスキルを磨く		A	
	コミュニケーションツールを使用して患者と効果的に情報交換できる		A	
	頭痛外来指導: 科学的で平易な治療の説明を行える. 患者およびその家族を教育する		A	
3. 学習と生涯教育				
	生涯にわたり頭痛のサイエンスを学習する		A	
	生涯にわたり頭痛のクリニカルな知識を向上させる		A	
	生涯にわたり頭痛の診療スキルを向上させる		A	
	積極的に研究会, 学会, 学習会, カンファランスに出席する		A	
	積極的に頭痛の文献を検索し学習する		A	
	積極的に学会発表・論文発表を行う		A	